

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 8月鳥類調査 速報

●実施状況

令和6年8月2日に鳥類調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が9:34(35cm)、満潮は17:03(184cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	10:28-11:47	8:43-9:38	12:27-13:37
調査時間(分)	79	55	70
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	32.1	29.0	33.4
風向	南東	南東	南東
風速(m/sec)	2.1	3.2	1.5
備考	干潟は広く干出。ヨシ原の付近では、多くのアシハラガニが見られた。	最干潮前から干潟は干出していた。	海浜公園側で海水浴のイベントが開催されていた。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位3種	カワウ(3899羽) ウミネコ(1372羽) アオサギ(31羽)	カワウ(179羽) ウミネコ(68羽) アオサギ(45羽)	カワウ(1035羽) アオサギ(24羽) ダイサギ(11羽)
備考	・カラシラサギ、ダイシャクシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ等、重要種として10種を確認。 ・シギ・チドリ類は4種を確認。ダイシャクシギ、キアシシギ、イソシギが干潟や護岸で採餌、ソリハシシギが飛翔。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギ、カラシラサギ2羽を確認。アオサギは休息個体が多く、ほかは主に採餌。 ・干潟でカワウとウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメが休息。 ・沖合でミサゴが休息。	・ササゴイ、コチドリ、オオセグロカモメ等、重要種として9種を確認。 ・シギ・チドリ類はコチドリ、キアシシギ、イソシギの3種を干潟や護岸で確認。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギ、ササゴイを確認。ササゴイは干潟で魚を捕食。 ・干潟でカワウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、カルガモが休息、ユリカモメが飛翔。 ・トビが水面に急降下して魚を捕食。	・キアシシギ、キョウジョシギ等、重要種として8種を確認。 ・カワウの個体数は第六台場396羽、鳥の島639羽、合計1035羽。繁殖は終了していた。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギを確認。アオサギが営巣している可能性が示唆されたが、雛は確認できなかった。 ・シギ・チドリ類はキアシシギ、イソシギ、キョウジョシギの3種を確認。 ・カモ類は雛連れのカルガモと、スズガモ1羽を確認。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和6年							重要種 選定基準				
				8月							文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RDB2023 (区部)	
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園							
				範囲 内	沖合	合計		第六 台場	鳥の 島	公園 側					合計
1	カモ	カモ	カルガモ	15		15	4			7	7				
2			スズガモ						1		1			留	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	3840	59	3899	179	396	639		1035				
4	バリカン	サギ	ササゴイ				1							CR	
5			アオサギ	31		31	45	15	9		24				
6			ダイサギ	19	3	22	7	4	6	1	11			NT	
7			コサギ	11	6	17	10	3	1	1	5			VU	
8			カラシラサギ	2		2							NT		
9	チドリ	チドリ	コチドリ				1							CR	
10		シギ	ダイシャクシギ	2		2								CR	
11			アオアシシギ											NT	
12			キアシシギ	5		5	3		5		5			VU	
13			ソリハシシギ	1		1								VU	
14			イソシギ	1		1	5	1	5		6			VU	
15			キョウジョシギ						2		2			VU	
16		カモメ	ユリカモメ				1								
17			ウミネコ	1225	147	1372	68			3	3			留	
18			セグロカモメ	1		1									
19			オオセグロカモメ	23		23	1						NT		
20	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1							NT	EN	
21		タカ	トビ				2	2	4		6			NT	
22	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ				4								
計6目9科22種				13 種	5 種	14 種	14 種	6 種	9 種	4 種	11 種	0 種	0 種	3 種	14 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は広く干出していた。



北側の地点より南方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

4 種 9 羽のシギ・チドリ類が確認された。ダイシャクシギは干潟で採餌、キアシシギは干潟と護岸で採餌、ソリハシシギは干潟上空を飛翔、イソシギは護岸で採餌していた。ダイシャクシギは東京都レッドデータブック絶滅危惧ⅠA 類(CR)に、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



2 羽のダイシャクシギ

キアシシギ

○出現種(ミサゴ)

沖合の杭にとまって休息する1羽が確認された。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB 類(EN)に指定されている。



ミサゴ (矢印)

○出現種(サギ類)

サギ類は 4 種が確認された。アオサギは干潟で主に休息、ほかの種は採餌。カラシラサギ 2 羽は活発に走りながら採餌していた。本種は過去の調査で平成 27 年度に記録があるだけで、今回が2回目の確認となる。カラシラサギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。



カラシラサギ

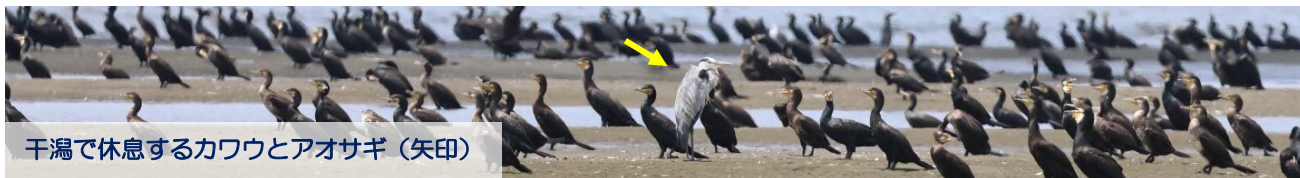
アオサギ

カラシラサギ

コサギ

○干潟利用状況

干潟でカワウ 3840 羽とウミネコ 1225 羽が休息。この中にオオセグロカモメとセグロカモメが混じって休息、サギ類が採餌と休息をしていた。オオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、ウミネコは東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



干潟で休息するカワウとアオサギ (矢印)

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

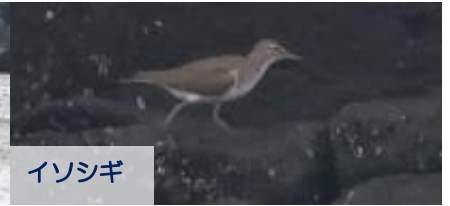
3 種 9 羽のシギ・チドリ類が確認された。コチドリは干潟で採餌、キアシシギは干潟で休息、イソシギは護岸で採餌と休息のほか、2 羽が水面を飛翔していた。コチドリは東京都レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類 (CR) に指定されている。



コチドリ



キアシシギ



イソシギ

○出現種(サギ類)

4 種のサギ類が確認された。個体数が多かったアオサギは干潟で採餌と休息、ダイサギは干潟で採餌、コサギは干潟や護岸で採餌していた。ササゴイは 1 羽が東側の干潟で魚を捕食していた。東京都レッドデータブックでササゴイは絶滅危惧 IA 類 (CR) に、ダイサギは準絶滅危惧 (NT) に、コサギは絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。



ササゴイ

○出現種(トビ)

2 羽が出現し、そのうち 1 羽が急降下して水面付近でコノシロを捕らえる様子が確認された。本種は東京都レッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



コノシロを捕らえたトビ

○干潟利用状況

カワウ 179 羽が干潟で休息、カモメ類はウミネコ 68 羽、ユリカモメ 1 羽、オオセグロカモメ 1 羽が休息、ほかにサギ類やカルガモが見られた。ウミネコの中には今年巣立った幼鳥が 1 羽含まれていた。



干潟で休息するカワウの群れとウミネコ (矢印)

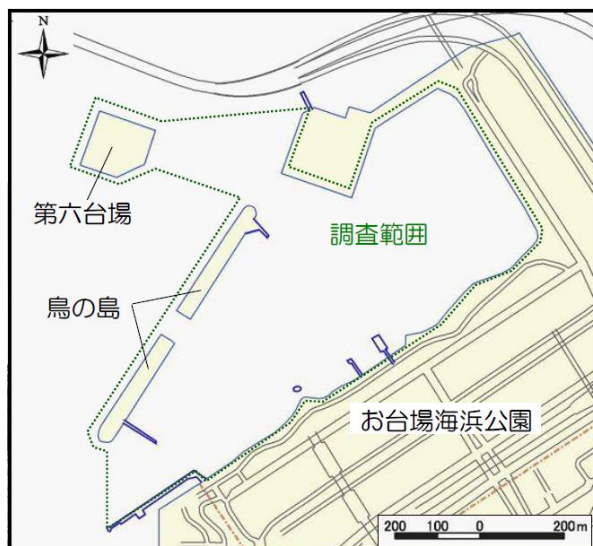


ウミネコ幼鳥 (左)

＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣は終了していた。



○出現種(カワウ)

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。カワウの個体数は第六台場に 396 羽、鳥の島に 639 羽、合計 1035 羽であった。第六台場や鳥の島の樹林、護岸には巣立った幼鳥が多く見られた。



○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認された。アオサギとコサギの一部が採餌していたほかは、主に休息していた。第六台場ではアオサギの繁殖が示唆される行動が確認されたため(トピックス参照)、今後の調査で経過を確認する必要がある。



○出現種(シギ・チドリ類)

3 種 13 羽のシギ・チドリ類が確認された。鳥の島でキアシシギ 5 羽が採餌、キョウジョシギ 2 羽が休息、イソシギ 6 羽が第六台場と鳥の島で採餌と休息をしていた。キョウジョシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(カモ類)

カルガモとスズガモの 2 種が確認された。カルガモはまだ小さな雛 4 羽を連れて泳いでいた。スズガモは風切羽を痛めて飛べない様子であった。スズガモは東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河で 27 羽のウミネコが確認され、この中に幼鳥 2 羽が含まれていた。使用中の巣や雛は確認されなかったことから、今季の繁殖は終了したと考えられる。なお、京葉線の高架に 539 羽のカワウがとまっているのが確認された。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコ成鳥



京葉線の高架にとまるカワウ

<トピックス>

- 第六台場でアオサギ営巣の可能性 -

第六台場の 2 か所で、アオサギが翼を半開きにした状態でじっとしているのが確認された。このうち 1 羽は樹上の巣の上に乗っており、巣内雛を暑さから守るために日陰を作っている行動と推測された。ただし、雛を目視することはできなかったため、これが繁殖行動なのかは未確定である。もう 1 羽については、つる植物が茂る中にいたため、巣や雛の有無も確認できなかった。アオサギの繁殖期は 9 月まで続くため、今後も留意して調査を行う必要がある。



巣の上で翼を広げるアオサギ



つる植物の中で翼を広げるアオサギ